

# 数字の書き方について

平成20年2月14日（木）に放送センターで第1306回放送用語委員会が開かれた。今回は「数字の書き方」についてである。

「数字の書き方」については、放送現場から、漢数字にすべきか算用数字にすべきかの問い合わせが多くある。たとえば、「三つ星/3つ星」のどちらを使うかなどである。『新用字用語辞典（第3版）』に原則と用例が載っているが、それでは十分とは言えない。また、最近では、縦書きでも算用数字を使う場面が多く見られる。現在NHKでは「縦書きは漢数字」とする原則を明記している。新聞社の一部では「縦書き」でも「算用数字」が使われ、通信社でも算用数字化の検討が始まっている。放送でも、画面字幕が上下左右に出せるようになってきている現在、縦書きに算用数字を使う場面も多く出てきている。「縦書きは漢数字」の原則のままで良いのだろうか。「縦書き」のときの数字の書き方についての問題点と「横書き」「縦書き」に限らず、数字の書き方についての問題点、この2つについて問題を整理した。

## 原則と考え方

NHKの放送での「数字の書き方」の原則は以下のとおりである。

「左横書きの場合は原則として算用数字を用い、縦書きの場合は漢数字で書く。左横書きの場合であっても、固有名詞や熟語で、漢数字で書くことが定着しているものは漢数字で書く。」

これは、「公文書の書式と文例」（平成元年・文部省）を元にしてしている。『新用字用語辞典（第3版）』では、この原則以外に「算用数字で書くもの」「漢数字で書くことが定着しているもの」の用例を明記している。

「公用文の書式と文例」は、昭和24年3月16日に公用文改善協議会により、内閣総理大臣に提出

された報告書「公用文改善協議会報告」に含まれるものである。ここで、「左横書き」化が明文化され、「数字」は、「左横書きの文章では算用数字（アラビア数字）を用いることを原則」とした。

放送で、テレビ画面に出す字幕を横書きにするか、縦書きにするか、明文化したものはない。現在は、画面の上下左右に字幕を出すことができ、縦書き字幕も増えている。しかし、伝統的に横書き字幕が多い。そのため「左横書き」を基本に原則を決めたものと思われる。また「縦書き」については、日本語の書式の伝統であることから「漢数字」としたと推察される。

## 報告

### （ニュース原稿の算用数字化について）

平成18年3月27日から報道局が、「ニュース原稿の算用数字化」を実施した。

現在、記者が書く原稿はワープロで「横書き」だが、手書きの時代は「縦書き」で書かれていた。この伝統をそのままに、ワープロが普及して、横書きが主流になってからも、原稿は漢数字を基本としていた。これを左横書きの原則どおりに変更したわけである。原稿での数字の書き方で、記者が縦書きで手書きしていた時代のやり方が残っていたのは、アナウンサーが読む原稿が「縦書き」であるためである。多くのアナウンサーにとっては「縦書き」原稿のほうが読みやすいということで、この伝統を踏襲している。アナウンサーが読むニュース原稿は現在でも「縦書き」であり、「ニュース原稿の算用数字化」というのは、「縦書きでも算用数字」にするということである。ただし、アナウンサーが読むニュース原稿は、原稿を読むアナウンサーと記事をチェックする担当者以外、視聴者の目に触れることはない。

「ニュース原稿の算用数字化」の理由と経緯を、

報道局・ニュース制作センター・メディア展開の松村隆博担当部長が報告した。

**松村担当部長**：平成12年12月からBSデジタル放送が始まり、データ放送が開始された。これまで、放送のときにアナウンサーが読んだり、記者がチェックしたりするために使われていたニュース原稿の内容を視聴者が目で見えるようになった。違和感なく見てもらうために、原稿では漢数字で書いている数字を、一部、算用数字に直すことが必要になった。

多くの原稿がある中では数字の書き方に不統一が生じるとも考えられるため、「ニュース原稿の算用数字化」の検討を始めた。縦書きである新聞社主要6紙のうち、平成12年当時、算用数字を使っていたのは、朝日、毎日、読売。漢数字を使っていたのは、日経、産経、東京。また、「縦書き・算用数字」にするとどういふ影響があるのか、実際にニュース原稿を読むアナウンサーに「縦書き・算用数字」の原稿を読んでもらい、意見を聞いた。アナウンサーは、おおむね賛成であり、一部、読みにくいところを補助することで対応できることがわかった。たとえば、小数点は「点」と漢字をあてるなどである。こうした改善を加えたうえで、平成18年に統一した。今のところ、数字の書き換えに問題は生じていない。今後、ニュース原稿がデータベース化されたときにも、数字の書き方が統一されていれば、問題も少ないだろう。

### （数字の表記不統一の現状について）

続いて、NHK情報ネットワーク制作部・校閲の佐藤正行統括部長から報告があった。

**佐藤統括部長**：校閲は、ニュース原稿と画面に出る表記のチェックなどをしており、数字の書き方について、日ごろ頭を悩ませている。日ごろ感じるのは、「縦書き字幕」でも「算用数字」を使う場面が多くなっていることである。NHKの原則は「縦書き・漢数字」であり、この原則のとおりには直してはどうかと交渉しても、「漢数字」では違和感があるということで、「算用数字」のままになってしまうことが多い。実際、「縦書き」で「漢数字」が出てくるのはまれであり、『新用字用語辞典』の原則は、実態からかけはなれていると

思う。縦書きに限らず、漢数字で書く慣用のあるものについても算用数字で原稿を出してくる場合が多くある。たとえば「党三役」は、漢数字で書くことにしており、「党四役」「党五役」なども漢数字だと理解しているが、実際には算用数字が出てきている。現在の用例だけでは手に負えないほど問題が多い。「縦書き・漢数字」についての原則の再考と決定、そして徹底した周知をお願いしたい。また用例を数多く示すなどの対応をとってほしい。

せっかく『新用字用語辞典』でルールを決めていても、守られなければ、権威を失ってしまい、表記もバラバラになってしまう。

### （縦書き字幕の現状）

NHKの放送では、テレビ画面上下に入れる横書きの字幕以外にも、画面左右に入れる縦書き字幕も使われている。基本は「横書き」だが、画面構成や映像によっては「縦書き」も出ている。

縦書きの場合、数字の表記をどのようにしているのか、報道局・ニュース制作センター・手話ニュースの松本恭司CPが報告した。

**松本 CP**：『手話ニュース』では、ニュースの内容を画面下または右側に字幕を表示している。横書きの字幕が多いが、縦書きを使う場面もあり、その際には、画面右に最大2行で、1行は12文字である。縦書き字幕の場合の数字は、固有名詞にかかわるものや漢数字で書く慣用が定着しているもの以外は算用数字を使っている。ケタの多い数字については、できるだけ横に並べて算用数字にしている。西暦は「'08」など下2ケタにして、それを横に並べる。4ケタの西暦をどうしても出さなければならない場合には、4ケタの算用数字を横に並べて表記することがある。また、1年ほど前からは「1000」を「1」を算用数字にして、その下に「千」をつけるようにした。

同じニュースや同じ画面で、横書きが算用数字で、縦書きが漢数字では、統一感がなく違和感がある。また、『手話ニュース』では、字幕の漢字、ローマ字、記号にはルビを打つことにしている。漢数字を使うと、すべてにルビを打つことになる。もともと画面に出ている文字情報が多い番組

で、ルビが増えると、見にくくなるということもある。こうした理由から、縦書き、横書きに関係なく算用数字を使っている。もちろん、慣用が定着しているものや漢数字で書くべき固有名詞などは漢数字にしている。算用数字で書くことで、そのニュースの中の数字がきわだって、わかりやすいと考える。今のところ、このやり方で混乱はない。制作現場に身を置く者としては、算用数字か漢数字かで悩むのは、固有名詞か順番の数字なのか、が多いように思う。たとえば「福島第2原発」なのか「福島第二原発」なのか。『新用字用語辞典』では「第2原発」となっているが、固有名詞は「第二」である。基本的には、固有名詞はそのままにすべきであると考えて判断している。用字用語のルールは知っておく必要はあるが、制作現場としては、どちらがわかりやすいか、伝わりやすいかで判断している。取材先の表記や取材によって、おかしくない表記を選んで問題はないだろう。

## 意見

**井上由美子委員**：作り手としてよりも、視聴者として考えてみる。「縦書き・漢数字」については、すでに一般でも「縦書き」で横並び2ケタの算用数字の表記が出てきており、定着している。「縦書き」でも「算用数字」を使ってもよいだろう。固有名詞については、たとえば「区立十中」という学校名は固有名詞だから、縦書きでも横書きでも漢数字で書く。しかし、「3年2組」は算用数字になる。不統一感もあり、その点を考える必要があるだろう。現在の「数字の書き方」は『新用字用語辞典』の第3版が出されたときから運用されているものようだ。この発行が平成16年であり、これ以降、液晶テレビの普及で視聴者が字幕に頼るようになり、意識が変化してきている。そう考えると、変化前に決めた現在のルールは古くなっているだろう。決まりを作るときは、送り手としての慣用や定着度を重視するのか、受け手の慣用、定着度を重視するのか、もう1回議論してほしい。

**清水義範委員**：数字をどのように書くのかは、小説を書いていて、いつも苦勞している。取り上げる内容や前後の文脈によって、同じことばでも算用数字にしたり漢数字にしたりということがあ

る。今回は、「算用数字」と「漢数字」に分けて考えているが、実は、「漢数字」で書くか、「記号」で書くかという問題もある。たとえば、西暦を漢数字で書こうとすると「二千八年」であるべき。しかし、実際は「二〇〇八」がある。この「〇」は漢字でもなく、算用数字の「レイ」でもない「記号」。「2008年」「二千八年」「二〇〇八年」のどれを使うかも考えなくてはいけない。

場面によって数字の書き方は違ってくるはずで、原則は作れないと思っている。国語的な場面では漢数字、算数的な場面では算用数字と、その文に似合う表記を選ぶことがいちばん現実的だと思う。また、横書きを使うことは許容するが、日本語の正書法は縦書きである。

**天野祐吉委員**：アナウンサーが読むニュース原稿が縦書きなのはなぜか？今は縦書きを守っている新聞も、いつか横書きになることがあるのではないか。これは、現象的な問題ではなく、日本文化の根本的問題になってくると思う。横書きが増えることで、横書きに慣れて、そちらのほうが読みやすいという人が多くなってくる。現状は「縦書き文化」を壊して、「横書き文化」に強引に組み換えられてきているということだろう。個人的には抵抗感がある。縦書き文化が壊れると、日本文化の本質にまで影響してしまう気がする。縦書きは守りたい。現在は縦書きと横書きが混在していて、混迷状態。どちらが正しいとも言えない。そういう点では、今の大原則は間違っていない。ただし、「横書きは原則として算用数字」となっているのに、「縦書きは漢数字」と断定している。横書きに、算用数字でおかしいから漢数字にするものがあるように、縦書きにも漢数字でおかしいものがあるはず。ここにも「原則として」をつけるべきだ。用例もつけてはどうか。報道のことばと文化など芸術のことばは違う。芸術のことば、たとえば、俳句は縦書きで書くべきで、横書きにすべきではない。しかし、ニュースは報道のことばだから「縦書き」である必要はないのではないか。正確さを示すために、テレビの文字情報は横書きにして、縦書きを減らすようにしてはどうか。

**井上史雄委員**：少し大きな視野で考えてみると、日本語の表記は、中国語の表記を取り入れてきた。

そこに明治以降、ヨーロッパ式の表記が少しずつ、さまざまな形で入ってきた。そのひとつが「算用数字」である。当初、「横書き」でも漢数字を使うこともあったが、算用数字のほうが定着し、それが「縦書き」にも影響してきた。たとえば、「縦書き」を廃止して、すべて「横書き」にしてしまえば、数字は原則として算用数字になり、問題は解決する。しかし、それでも、漢数字で書く慣用があり、算用数字では違和感のあるものが出てくるだろう。結局は、今と同じ議論になり、すべて算用数字というわけにはいかない。現在は、日本語の欧米化の過渡期であり、日本での完全「算用数字化」はもう少し遅れるのではないか。「算用数字」を使うか、「漢数字」を使うかを考えるのに、「語種」で考えてみた。日本語の語種には「和語・漢語・外来語・混種語」がある。それぞれの語種に数字がついたときに、算用数字になりやすいか、漢数字になりやすいかを考える。外来語の場合はどうだろうか？たとえば「ニュースライン」のようにカタカナで書かれることが多い。和語の場合は、ひらがなか漢字。たとえば、「ひとり／一人／独り」などである。また、ケタが多い数字は算用数字で書かれる場合が多い。

「横書き・算用数字」の原則は、日本語の表記としては革新的な原則であったと考えられ、今のままでよいと思う。そのほか、個別な用例は、インターネットや国立国語研究所の語彙調査などからデータを集めたうえで、個別に議論してはどうだろうか。調査をすると、表記には年代差が出てくる。調査対象が接触する頻度が縦書き、横書きどちらが高いかで数字の表記の違和感は異なる。最初はおかしいと思っていても、多く接触するうちに慣れてきてしまうものである。

**野村雅昭委員**：現在「原則」となっているものは、「大原則」ではない。まずは、縦書きと横書きどちらを使うのかを決めるのが「大原則」である。「横書き」が定着している現在では、「横書き」を原則として問題はない。現在、縦書きで書いているニュース原稿も「横書き」を原則とするように変えても良いだろう。そのうえで、数字は算用数字を基本とし、違和感のあるものは漢数字にする、と決めていいと思う。現行の決まりは「数量・順

序を示す意味が薄い場合は漢数字」などとしているが、これは人によって感覚が違い、線引きが難しい。できるだけ用例を多く示し、用例はその時の大勢で決めていくようにしてはどうだろうか。時がくればだんだんと算用数字の方向にいくものが出てくるだろう。今はその過渡期であると思う。「縦書き・漢数字」には、もう無理がある。放送用語委員会は、「国語の正書法」を論じる場ではなく、「テレビ画面での見やすい表記」を考える場である。視聴者の立場で考えると「縦書き・漢数字」という習慣は弱いものになっているだろう。「縦書き・算用数字」に違和感がなくなっている人が多いと思う。ニュースのことは前提を考えれば、「縦書き・算用数字」でいいと思う。

### まとめ

番組制作の現場では現在「縦書き・漢数字」という原則が崩れている。また「横書き」についても、漢数字で書く慣用が定着しているものや、固有名詞かそうでないか、など表記や考え方にゆれが出てきていることがわかった。

ニュースの場合、取材内容によって、漢数字か算用数字かを判断する場合もある。一方で、放送する場合、同じことばでも取材者によって表記が違っては視聴者に表記の不統一と捉えられてしまうのも確かである。用語班としては、今後、「放送用語小委員会」で現場の意見を集約するとともに、漢数字・算用数字の使い分けの用例をより充実させたものを再提案する。

「縦書き」については、「原則として漢数字」と「原則として」を加えること。また、新聞社・通信社での「縦書き」の場合の「算用数字」の使い方方を参考にしながら、現状に合わせた原則を考え、用例も加えることにする。

最後に、文化審議会が行っている常用漢字表の見直しについての報告も行った。

山下 洋子(やました ようこ)

### 第1306回 放送用語委員会(東京)

【開催日】平成20年2月14日(木)

【出席者】井上史雄氏、野村雅昭氏、天野祐吉氏

清水義範氏、井上由美子氏

榊原一 NHK放送文化研究所長ほか